

令和6年度

大学院教育学研究科（修士課程）

学校臨床心理専攻

学 生 募 集 要 項

【前期募集】

出願期間 令和5年8月17日(木)～8月22日(火)
学力検査日 令和5年9月10日(日)

【後期募集】

出願期間 令和6年1月4日(木)～1月11日(木)
学力検査日 令和6年2月4日(日)

令和5年6月

北海道教育大学

北海道教育大学大学院教育学研究科の 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

（平成29年3月28日制定）

（令和元年6月25日改正）

（令和2年5月21日改正）

（令和4年3月24日改正）

【大学院教育学研究科（修士課程学校臨床心理専攻）】

（求める学生像）

学校臨床心理専攻では、児童生徒の成長発達及び指導援助に関わる多様な学校教育の課題に関して、教育臨床的アプローチを有効に進めることのできる高度な専門的能力の形成を図ります。

そのために、教育及び臨床心理に関する研究に明確な目的意識と情熱をもち、これに関する活動に責務を果たすことを目指す人を求めます。

また、学校臨床心理専攻に入学する前までに教育学、心理学等をはじめとする基本的な知識や技能を有していることが望まれます。

（入学者選抜の基本方針）

学校臨床心理専攻の入学者選抜は、求める学生像に合致する入学者を選抜するため、専門科目、外国語科目、口述試験及び出願書類により総合的に評価します。

なお、現職教員等は、外国語科目を免除しています。

令和6年度 北海道教育大学大学院教育学研究科（修士課程）学校臨床心理専攻
入学試験日程

	前期募集	後期募集
出願受付期間	令和5年8月17日(木)～8月22日(火) ※消印有効	令和6年1月4日(木)～1月11日(木) ※消印有効
受験票の発送	令和5年8月29日(火)	令和6年1月19日(金)
学力検査日	令和5年9月10日(日) ※ただし、志願者が多い場合、令和5年9月9日(土)に口述試験を実施することがあります。	令和6年2月4日(日) ※ただし、志願者が多い場合、令和6年2月3日(土)に口述試験を実施することがあります。
合格者発表	令和5年10月2日(月) 午前9時	令和6年2月15日(木) 午前9時
入学手続	令和6年3月1日(金)～3月7日(木)	

災害等による選抜方法等の変更について

この学生募集要項発行後、災害発生や治療法が確立していない感染症の拡大等に伴い、やむを得ず、試験日程や選抜方法等を変更する場合があります。

出願受付期間終了後、上記の変更を行う場合、志願者への個別連絡のほか、本学ホームページ「入試情報」(<https://www.hokkyodai.ac.jp/exam/>)で変更内容をお知らせしますので、最新の情報を確認するようご注意願います。



目 次

1 募 集 人 員	1
2 出 願 資 格	1
3 出 願 手 続	3
4 障がいがある等の入学志願者の事前相談	4
5 選抜方法及び学力検査日程	4
6 学力検査内容	4
7 学力検査の時間割	5
8 合 格 者 発 表	6
9 入 学 手 続	6
10 授 業 料	6
11 現職教員を対象とした入学料減免	6
12 長期履修学生制度	7
13 教員免許状取得特別プログラム	7
14 個人情報取扱の取扱い	7
15 そ の 他	7
〈試験会場位置図〉	9
〈別記：「修学場所」, 「昼夜開講コース」, 教員免許状取得特別プログラム〉	10
〈令和5年度 大学院教育学研究科入学者選抜実施状況〉	12
〈日本学生支援機構奨学金〉	12
〈大学院教育学研究科（修士課程）学校臨床心理専攻概要〉	13

学生募集要項

学生募集要項

1 募集人員

【前期募集】

専攻	専修	分野	募集人員	修学場所及び募集人員			
				札幌ベース キャンパス	旭川サテライト キャンパス	釧路サテライト キャンパス	函館サテライト キャンパス
学校臨床心理	学校臨床心理	学校臨床心理	7	約7人			

【後期募集】

専攻	専修	分野	募集人員	修学場所及び募集人員			
				札幌ベース キャンパス	旭川サテライト キャンパス	釧路サテライト キャンパス	函館サテライト キャンパス
学校臨床心理	学校臨床心理	学校臨床心理	2	約2人			
合計			約9人				

- (注) 1 前期募集において合格者が募集人員に達しない場合は、後期募集において当該欠員数を上乗せして募集します。
- 2 修学場所は、札幌ベースキャンパスのほかに、旭川サテライトキャンパス・釧路サテライトキャンパス・函館サテライトキャンパスの各キャンパスがあります。学生は希望する修学場所を志願票送付の際に選択することができます。なお、志願票提出時に選択した修学場所は修了時まで変更することができません。また、志願票提出時に選択した修学校の専任教員の中から修士論文の主旨指導教員を選ぶことになります。ただし、副指導教員については、入学後に入学者の希望や研究領域等を勘案しながら、本専攻の教員会議での審議を経て、修学場所以外の専任教員が務める場合があります。〔関連する事項として、別記「修学場所」(10頁)及び概要「6 授業方法」(14頁)を参照してください。〕
- 3 教育委員会派遣教員や附属学校教員大学院研修制度研修員も定員9名の内に含まれます。

2 出願資格

出願資格は、次の各号のいずれかに該当する者とします。

- ① 大学を卒業した者又は令和6年3月卒業見込みの者
- ② 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者又は令和6年3月までに授与される見込みの者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は令和6年3月修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の文部科学大臣の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑧ 文部科学大臣の指定した者〔昭和28年2月7日文部省告示第5号の規定による。〕
- ⑨ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの

- (注) 1 **外国籍を有する入学志願者**は、あらかじめ出願資格の確認を行いますので、下記期日までに入試課へ、「3 出願手続」の「(1) 出願書類及び入学検定料」(3頁)中の「④ 履歴書」,「⑦ 卒業(見込)証明書」及び「⑧ 成績証明書」のそれぞれのコピーを提出してください。
提出書類中、英語以外の外国語で書かれた証明書には、その日本語訳を添付してください。

【前期募集】 令和5年7月4日(火) / 【後期募集】 令和5年10月25日(水)

2 **出願資格⑨**については、「短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者」などが対象です。

これによって出願しようとする場合は、事前に「個別の入学資格審査」を行う必要がありますので、下記期日までに入試課に問い合わせてください。

※ **資格審査の照会期限** 【前期募集】令和5年7月4日(火)／【後期募集】令和5年10月25日(水)

※ **資格審査書類の提出期限** 【前期募集】令和5年7月11日(火)／【後期募集】令和5年11月1日(水)

なお、個別の入学資格審査の可否については、下記期日に本人あてに通知します。

【前期募集】令和5年7月27日(木)／【後期募集】令和5年11月16日(木)

(参考) **出願資格⑧**の文部科学大臣の指定した者とは、次の者等を指します。

- ・「教育職員免許法（昭和24年法律第147号）による小学校、中学校、高等学校若しくは幼稚園の教諭若しくは養護教諭の専修免許状又は1種免許状を有する者で22歳に達したもの」
- ・「旧国立養護教諭養成所設置法（昭和40年法律第16号）による国立養護教諭養成所を卒業した者で、教育職員免許法による中学校教諭若しくは養護教諭の専修免許状又は1種免許状を有するもの」

3 出願手続

志願者は、出願に必要な書類及び入学検定料を取り揃え、必ず本学所定の封筒を使用し、出願受付期間中に入試課へ持参又は「書留・速達」便で郵送してください。

(1) 出願書類及び入学検定料

次の書類のうち、①～⑤、⑨～⑩は、本学所定の用紙です。

書類等の名称	提出該当者	摘 要
①入 学 願 書	全 員	※印欄は、記入しないでください。
②研 究 希 望 調 書	〃	※印以外の欄に具体的に記入してください。
③④履 歴 書	〃	履歴に空白期間がないように記入してください。 外国籍の方は、外国籍を有する志願者用の履歴書に記入してください。 研究生歴等がある場合はもれなく記入してください。
⑤受 験 票 ・ 写 真 票	〃	写真は、出願前3か月以内に撮影した上半身、正面向、脱帽のもの（縦4cm×横3cm）を貼付してください。（2枚同一のもの）
⑥入 学 検 定 料 (30,000円)	〃	同封の「払込取扱票」に必要事項を記入し、ゆうちょ銀行（郵便局）で「30,000円」を払い込み、「郵便振替払込受付証明書（お客さま用）」を「⑤受験票・写真票」の裏面に貼付してください。
⑦卒業（見込）証明書	〃	出身大学長（大学卒業以外の者は、最終卒業学校長）が作成したものを提出してください。
⑧成 績 証 明 書	〃	出身大学長（大学卒業以外の者は、最終卒業学校長）が作成し、厳封したものを提出してください。
⑨受 験 票 等 返 送 用 封 筒	〃	354円分の切手を貼付し、志願者の住所・氏名・郵便番号を記入してください。
⑩あ て 名 票	〃	合格通知書が確実に配達される住所を記入してください。
⑪学位授与(取得見込) 証 明 書	出 願 資 格 ② 該 当 者 の み	大学評価・学位授与機構が作成した学位授与証明書を提出してください。 ※出願資格①の大学を卒業した者は、提出不要です。
	出 願 資 格 ⑥ 該 当 者 の み	学士相当の学位の取得（見込）を証明する書類（学位取得（見込）証明書等）を提出してください。
⑫教 育 職 員 免 許 状 授 与 証 明 書	出 願 資 格 ⑧ 該 当 者 の み	免許状を授与した都道府県教育委員会が作成したもの又は教育職員免許状のコピー（裏面に単位数の記載のあるものは、裏面のコピーも含む。）を提出してください。
⑬住 民 票	該 当 者	現に日本国内に在住している外国人は、市区町村長の発行する住民票（在留資格・期間が明記されているもの）を提出してください。

（注）提出書類中、英語以外の外国語で書かれた証明書には、その日本語訳を添付してください。

(2) 出願受付期間

【前期募集】令和5年8月17日（木）～8月22日（火） ※消印有効

【後期募集】令和6年1月4日（木）～1月11日（木） ※消印有効

※ 持参の場合の受け付けは、午前9時から午後5時まで（土・日曜日、祝日を除きます。）とします。

(3) 出願先及び問い合わせ先

入 試 課	郵便番号	所 在 地	電 話
	002-8502	札幌市北区あいの里5条3丁目1番5号	011-778-0652

注1 学校臨床心理専攻の出願先及び問い合わせ先は、入試課になります。
各サテライトキャンパスではありませんのでご注意ください。

(4) 出願に当たっての留意事項等

ア 受け付けた出願書類及び入学検定料は、返還しません。

ただし、入学検定料を納入したが、出願しなかった者は、入試課入学試験グループ（電話011-778-0652）に申し出た場合には返還します。

イ 受験票は、下記期日までに発送します。

【前期募集】令和5年8月29日（火）／【後期募集】令和6年1月19日（金）

4 障がいがある等の入学志願者の事前相談

障がいがある等の理由で、受験上及び修学上の配慮を必要とする志願者もしくは不安を感じる志願者は、出願の前に入試課へご相談ください。

なお、これらの申し出は、適切な受験環境を整えるため、あるいは、入学後の修学環境を充実させることを目的にしていますので、合否判定には一切影響はありません。

申し出に基づき、詳細な相談が必要となった場合は、原則として以下のように対応いたします。

ア 事前相談の時期

【前期募集】令和5年7月27日（木）まで／【後期募集】令和5年12月8日（金）まで

ただし、「代筆解答」希望者は、前期募集は令和5年7月7日（金）まで、後期募集は令和5年9月29日（金）までとします。

イ 事前相談の方法

相談の内容を記載した書類（健康診断書等、必要書類添付）を提出することとし、必要な場合には、本学において志願者又はその立場を代弁し得る関係者等との面談等を行うことがあります。

5 選抜方法及び学力検査日程

入学者の選抜は、学力検査の成績及び最終卒業学校の成績の結果を総合して判定します。

(1) 学力検査日

【前期募集】令和5年9月10日（日）

（ただし、志願者が多い場合は、令和5年9月9日（土）に口述試験を実施することがあります。該当者には、受験票送付時にお知らせします。）

【後期募集】令和6年2月4日（日）

（ただし、志願者が多い場合は、令和6年2月3日（土）に口述試験を実施することがあります。該当者には、受験票送付時にお知らせします。）

(2) 試験会場

試験会場の位置図は、9頁に示してあります。

6 学力検査内容

専門科目試験、外国語科目試験及び口述試験を行います。

(1) 専門科目

専 修 名	専 門 科 目
学 校 臨 床 心 理	学校臨床心理 (臨床心理学, 教育学, 教育心理学, 特別支援教育学から数題を選択して論述)

(2) 外国語科目

外国語科目として「英語」を課します。

※英和辞書、和英辞書の持込みを認めます。ただし、電子辞書の類は不可です。

(3) 口述試験

研究希望調書等に基づき、行います。

なお、本大学院における研究主題、目的、方法等や意欲を問うことが主な内容となります。

(4) 配点

学力検査の配点は、次のとおりとします。

専門科目試験	200点	} 500点
外国語科目試験	100点	
口述試験	200点	

(注) 1 現職教員に対する学力検査科目の特例措置による配点は、外国語科目試験100点を除き、400点とします。

(5) 現職教員等に対する学力検査科目「外国語科目」の特例措置

現職教員等で、かつ、3年以上の経験のある者は、外国語科目試験を免除し、課しません。

(注) 1 「現職教員等」とは、現に幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、または特別支援学校教員として在職している者（期限付き任用を含む。）で、3年以上の経験がある者（期限付き任用の場合は、通算して3年以上。ただし、時間講師は除きます。）をいい、在職年月数は、令和6年4月1日現在で算出します。（月数が1か月未満の場合は、1か月に切り上げて算出します。）

2 教育関係機関（教育委員会及び教育研究所等）に現に在職している者で、3年以上の教員経験がある者は、上記を準用します。

3 現職教員には、高等専門学校の教員として在職している者を含みます。

4 外国語試験科目を免除していますが、大学院教育において、英語力の必要なことはいうまでもなく、十分な研鑽を要します。

(6) 外国人留学生に対する学力検査科目の特例措置

外国人留学生に対する学力検査科目の特例措置はありません。

7 学力検査の時間割

日程 専修	【前期募集】令和5年9月10日（日）／【後期募集】令和6年2月4日（日）								
	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
学校臨床心理	専門科目 9:00~10:40		外国語科目 11:00~12:30				口述試験 13:30~17:00		
			口述試験 11:00~12:30						

備考1 受験者が多い場合は、口述試験が「17:00」を超えることがあります。

また、口述試験の受験日時を前期募集令和5年9月9日（土）、後期募集令和6年2月3日（土）に別途指示されている場合は、その指示によります。

2 集合時間は、試験開始時刻の「30分前」までとします。

8 合格者発表

【前期募集】令和5年10月2日（月） 午前9時

【後期募集】令和6年2月15日（木） 午前9時

- (1) 合格者の発表は、文書によって本人あてに通知するとともに、合格者の受験番号を本学ホームページに掲載します。

北海道教育大学ホームページアドレス <https://www.hokkyodai.ac.jp/>

※ 本学のホームページが表示されましたら、ブラウザの更新ボタンを押してから、合格者の受験番号をご覧ください。

- (2) 合格者には、入学手続きに必要な書類を送付するとともに、書類提出期日等、必要な事項を通知します。なお、合否について、電話等による問い合わせには応じません。

9 入学手続

- (1) 入学手続期間

令和6年3月1日（金）～3月7日（木）

入学料等を「払込取扱票」によりゆうちょ銀行（郵便局）で支払い、「郵便振替払込受付証明書（お客さま用）」を同封し、「書留・速達」便により、**入学手続期間内に必ず到着するよう送付してください。**

※ 持参の場合の受け付けは、午前9時から午後5時まで（土・日曜日を除きます。）とします。

- (2) 納入金

入学料 282,000円

- (注) 1 上記の金額は、現行の金額であり、入学時に改定が行われた場合には、改定時から新たな金額が適用されます。
2 入学料は、上記の入学手続期間内に納入してください。
3 納入した入学料は、返還しません。
4 減免及び徴収猶予の制度があります。詳細は、合格者あてに別途通知します。

10 授業料

授業料 年額 535,800円 （前期）267,900円
（後期）267,900円

- (注) 1 上記の金額は、現行の金額であり、入学時及び在学中に改定が行われた場合には、改定時から新たな金額が適用されます。
2 前期分の授業料は、令和6年5月に口座引落の方法でお支払いいただきます。
3 減免及び徴収猶予の制度があります。詳細は、合格者あてに別途通知します。

11 現職教員を対象とした入学料減免

本学では、大学院に入学する現職教員に対する経済的支援策として、現職教員全員を対象とした入学料の半額免除を実施します。

(注) 本制度の対象となる「現職教員」は、選抜区分の「現職教員等」の定義とは異なります。詳細は、合格者あてに別途通知します。

12 長期履修学生制度

職業を有する等の事情により、定められた修業年限（2年）では、大学院の教育課程の履修が困難な者を対象とした長期にわたる履修制度があります。職業を有する等とは、有職者（正規雇用、臨時雇用を問いません。）、家事、育児、介護等の事情により、フルタイム学生としての修学が困難な事情にあることをいいます。

この制度では、2年間で設定されている教育課程を4年間で上限として履修する計画を立て、長期履修学生として在籍することが可能となり、長期履修学生として認められた場合の授業料は、履修期間にかかわらず、原則として2年分の授業料の納入でよいことになります。

長期履修希望者は、入学手続き時又は在学1年目の2月15日までに次の書類を提出し、許可を受ける必要があります。

- (1) 長期履修申請書
- (2) 理由書
- (3) 在職証明書又は在職が確認できる書類（職業を有する者に限る。）
- (4) 履修計画書
- (5) その他大学が必要と認める書類

長期履修制度を申請する前に、本専攻の専任教員に履修計画や履修期間について相談をするようにしてください。事前相談を希望する方は、入試課（E-Mail：g-nyushi@j.hokkyodai.ac.jp）にお問い合わせください。

13 教員免許状取得特別プログラム

詳細は、別記3「教員免許状取得特別プログラム」（10頁～）を参照してください。

14 個人情報の取扱い

- (1) 本学は、「個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「個人情報保護に関する基本方針」及び「国立大学法人北海道教育大学個人情報等取扱規則」を定め、個人情報の保護に取り組んでいます。関係規則等につきましては、本学のホームページをご覧ください。
- (2) 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報は、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格者発表、③入学手続き、④入学者選抜方法等に関する調査・研究業務、⑤これらに付随する業務を行うために利用します。

なお、④に関し、調査・研究結果の発表を行う場合、個人が特定できないように処理します。

- (3) 入学者の個人情報は、入学後の①教務関係業務（学籍管理、修学指導等）、②学生支援関係業務（健康管理、奨学金申請等）、③授業料等に関する業務を行うために利用します。
- (4) 上記(2)及び(3)の業務を行うに当たっては、業務の全部又は一部を外部の事業者へ委託することがあります。委託先に対しては、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、お知らせいただいた個人情報の全部又は一部を提供します。

15 その他

- (1) 授業科目、履修基準、教育職員免許状等については、「大学院教育学研究科（修士課程）学校臨床心理専攻概要」（13頁～）を参照してください。
- (2) 北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査による、教員採用候補者名簿登録者が、本学の大学院へ進学する場合は、北海道・札幌市への本人の申し出により登録期間を1年間延長することができます。（※ 登録期間の1年間延長：教員採用候補者名簿登録者は、通常、翌年度1年間の登録期間が有効ですが、本人の申し出により、更に1年間の延長が可能となり、2年間修学に専念することができます。なお、2年間で修了後、教員に採用されることとなります。）
- (3) 受験にあたっては、17頁から18頁に示す専任教員に研究テーマあるいは履修計画等について事前に相談をしておくことをお勧めします。事前相談を希望する方は、入試課（E-Mail: g-nyushi@j.hokkyodai.ac.jp）にお問い合わせください。

試験会場位置図

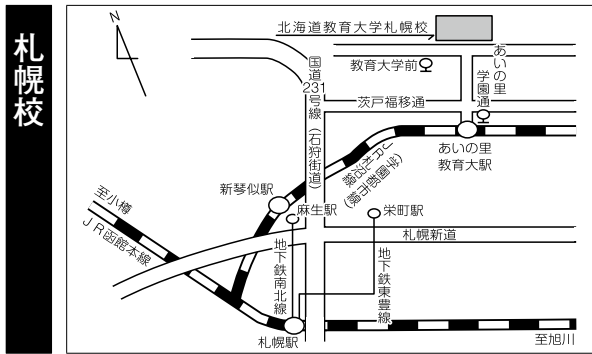
別記

- 1 「修学場所」
- 2 「昼夜開講コース」
- 3 「教員免許状取得特別プログラム」

入学者選抜実施状況

日本学生支援機構奨学金

試験会場位置図



名称 北海道教育大学札幌校
所在地 札幌市北区あいの里5条3丁目1番5号

交通案内

- JR「学園都市線」の「あいの里教育大駅」から徒歩約20分（約1.4km）
札幌駅→あいの里教育大駅 約30分
- 地下鉄-バス
地下鉄南北線の「麻生駅」から中央バス「麻^㉔あいの里教育大線」で約32分、「あいの里4条5丁目」又は「教育大学前」下車，徒歩2分
地下鉄東豊線の「栄町駅」から中央バス「栄^㉓栄町・教育大線」で約27分、「教育大学前」下車，徒歩2分

※ 運行時刻等は、各自でお調べください。

別 記

1 「修学場所」(1頁)

授業および論文指導は、札幌ベースキャンパス・旭川サテライトキャンパス・釧路サテライトキャンパス・函館サテライトキャンパス、札幌駅前サテライト教室、実習先等のいずれかにおいて行います。授業科目によっては希望する修学場所では授業等を受けられない場合がありますので、教育企画課に問い合わせてください。

2 「昼夜開講コース」

「昼夜開講コース」の授業時間は、主に下記のとおり6校時及び7校時に開講されます。

なお、同コースの開始時刻については、担当教員と受講者が調整をとりながら変更する場合があります。

授業科目の多くは、平日の夜間及び土日祝日の昼間、並びに長期休業期間中の集中講義として開講されます。

授業時間

校 時	開始時刻	～	終了時刻
1校時	9:00	～	10:30
2校時	10:40	～	12:10
3校時	13:00	～	14:30
4校時	14:40	～	16:10

校 時	開始時刻	～	終了時刻
5校時	16:20	～	17:50
6校時	18:00	～	19:30
7校時	19:40	～	21:10

3 教員免許状取得特別プログラム

本プログラムは、学部で教職課程を履修しなかった方、中学校・高等学校の教員免許状所有者で小学校教員を目指している方に、長期在学制度を活用して小学校教諭免許状（専修免許）の取得を可能にするものです。

本プログラムは、3年間で大学院の単位修得・修士論文等に加えて、小学校教諭一種免許状に対応した学部の教職課程を履修するもので、所定の単位を修得して大学院を修了した時には、小学校教諭専修免許状の所要資格が得られます。ただし、既存の長期履修制度とは異なるため、授業料は3年間分必要です。

(1) 教員免許状取得特別プログラムの募集人数

本プログラムで取得できる免許状と受講できる学生の募集人数は、次のとおりです。

免許状	修学場所	札幌ベース キャンパス	旭川サテライト キャンパス	釧路サテライト キャンパス	函館サテライト キャンパス
小学校教諭一種免許状		若干人	若干人	若干人	若干人

(2) 申請資格

前期募集に出願した者。ただし、次のいずれかに該当する者は申請できません。

- ① 昼間に学部の教職課程を履修できない者
- ② 取得を希望する学校種の免許状（小学校二種）を有する者又は取得見込みの者

(3) 申請期間

令和5年8月17日（木）～8月22日（火） ※消印有効【前期募集の出願受付期間と同じ】
出願書類と一緒に提出してください。

(4) 申請先

3頁「3 (3) 出願先及び問い合わせ先」と同じ

(5) 問い合わせ先

北海道教育大学教育研究支援部 教育企画課 〒002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目1番5号
TEL：011-778-0947 FAX：011-778-0634 E-mail：g-insien@j.hokkyodai.ac.jp

(6) 受講可否の決定方法

本プログラムの受講可否の決定は、本大学院修士課程の通常の入学試験とは別に、教職への関心と意欲、適性等を審査します。

なお、本プログラムの受講が不許可になっても、大学院修士課程の入学者選抜試験の合格は取り消されません。

1) 選考日：令和5年9月10日（日）〔前期募集の学力検査日と同じ〕

・面接 大学院学力検査終了後（口述試験終了後）に行う。

2) 選考会場：札幌校 札幌市北区あいの里5条3丁目1番5号

3) 選考結果発表日：令和5年10月2日（月）〔前期募集の合格発表日と同じ〕

(7) 修業年限

本プログラムの学生は、修業年限を3年とします。

なお、本プログラムの受講が不可になった場合および修学中途で本プログラムの受講中止を申請した場合には、2年の修業年限となります。

(8) 授業料等の負担

通常の授業料相当額を在学期間の間（3年間）納入することになります。

授業料 年額 535,800円（前期） 267,900円
（後期） 267,900円

(9) 本プログラムの授業開設

本プログラムの学生は、基本的に大学院及び学部の既存の開設科目を履修しますが、新たに本プログラムの学生だけの特別クラスを設ける科目もあります。また、本プログラムでは、小学校教員免許状取得に必要な教育実習の履修や介護等体験の受講が可能です。

(10) 履修モデルの作成と学生の入学後の指導責任体制

本プログラムでは、学生指導の実態と履修者の個別事情に合わせた履修モデルを作成し、科目の履修方法等の学生指導に責任をもって当たります。

(11) 入学後に修得すべき単位数

教員免許をまったく取得していない人の場合（各学年の履修単位数は目安）
大学院と学部を合わせて89単位以上を3年間で修得します。

	大学院	学 部	計
1年目	8	28	36
2年目	14	22	36
3年目	8	9	17
計	30	59	89

- ※ 1) これに加えて、大学で「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」各2単位を修得していない人は、これらの単位も1年目で修得する必要があります。
- 2) 学部の教職課程で履修した単位がある場合は、修得単位数が控除される場合があります。
- 3) 教員免許をまったく取得していない人、高等学校又は幼稚園の教員免許のみを取得している人は、社会福祉施設などでの介護等体験が必要です。

令和5年度 大学院教育学研究科入学者選抜実施状況

専攻	専修	入学定員		志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		留学生		留学生		留学生		留学生		留学生	
学校臨床心理	学校臨床心理	9	-	22	-	21	-	14	-	14	-
高度教職実践	高度教職実践	80	-	73	-	71	-	71	-	68	-
合	計	89	-	95	-	92	-	85	-	82	-

※留学生数は内数で示す。

日本学生支援機構奨学金

本学では、日本学生支援機構奨学生募集について、各キャンパスで周知しています。

◇ 奨学金の種類と募集時期等（2023年度採用者）

奨学金の種類	採用の種類	募集時期	貸与月額
第一種奨学金 【無利子貸与】	定期採用	4月	5万円又は8万8千円
	緊急採用	随時	
第二種奨学金 【有利子貸与】	定期採用	4月	5万円・8万円・10万円・13万円・15万円の5種類の中から選択
	緊急採用	随時	
併用貸与	第一種奨学金申込みの学力基準を満たしており、経済的理由があれば、第一種奨学金と第二種奨学金の両方の貸与を受けることができます。		
入学時特別増額貸与	第1学年入学者で条件を満たす者に対して、希望により貸与月額の初回振込時に10～50万円（10万単位）の金額から選択して増額貸与を受けることができます。		

【予約採用】

大学院入学前に奨学金を予約する制度です。

本学大学院に入学しようとする者に対して、令和5年8月～10月頃に申込を受け付けています。

採用候補者として決定され、本学大学院に入学した場合に採用が決定します。

【定期採用】

4月頃に本学の各キャンパスにおいて申込を受け付けています。

【緊急採用】

家計の急変（主たる家計支持者の失職、破産、事故、病気もしくは死亡等。又は火災、風水害等の災害等）によって奨学金を緊急に必要とする者に対して、随時募集を行っています。

◇ 本学の奨学生数

令和5年3月1日現在

校名	学年・種別	1年		2年		計	
		第一種	第二種	第一種	第二種	第一種	第二種
学校臨床心理専攻	学生数	9人		19人		28人	
	奨学生数	2人	0人	1人	0人	3人	0人
	%	22.2%		5.2%		10.7%	

（学生数は令和4年10月1日現在）

大学院教育学研究科（修士課程）
学校臨床心理専攻
概 要

目 次

1 目 的	13
2 専攻, 専修	13
3 カリキュラム・ポリシー	13
4 履 修 基 準	13
5 取 得 資 格 等	13
6 授 業 方 法	14
7 授 業 科 目 一 覧	15
8 担当教員専門領域	17

大学院教育学研究科（修士課程）学校臨床心理専攻概要

1 目的

心理臨床、教育臨床、発達臨床の各領域における専門的研究を深め、様々な心と関係性の問題の援助を必要とする幼児、児童及び生徒に対しての支援を有効に進めることのできる高度な専門的能力の形成を図り、子どもを理解する力、分析してアセスメントする力、発達を支援していく力、保護者、学校、専門機関等の間での連携及び協働をコーディネートする力、実践的課題を発見して研究的な側面からアプローチする力並びにこれらの応用的な能力を基盤として支える専門的知識等を身に付けた教員、心理士等を養成する。

2 専攻、専修

専攻	専修	分野
学校臨床心理	学校臨床心理	学校臨床心理

3 カリキュラム・ポリシー

本学大学院教育学研究科修士課程学校臨床心理専攻では、高度専門職業人としての教員や心理士等を養成するため、これらの人びとに求められる子どもを理解する力、分析してアセスメントする力、発達を支援していく力、保護者、学校、専門機関等の間での連携及び協働をコーディネートする力、実践的課題を発見して研究的な側面からアプローチする力並びにこれらの応用的な能力を基盤として支える専門的知識等を身に付けることができるように、以下の方針に基づき教育課程（カリキュラム）を構成・実施します。

- 1 教育課程（カリキュラム）は、専門科目及び課題研究によって構成する。
- 2 専門科目は、臨床心理学・教育学・教育心理学・特別支援教育学等を基盤とする学際的な領域である学校臨床心理分野に関わる専門的内容又は研究方法論、研究倫理等について学修することができるように構成する。
- 3 課題研究は、学校臨床心理分野の研究課題、研究方法論等についての考究を深め、学位論文（修士論文）に関する構想・研究調査・分析検討・論文執筆等及び最終試験に関わる指導を受けることができるように構成する。

また、上記の教育課程編成の方針に基づき、臨床心理学・教育学・教育心理学・特別支援教育学等を基盤とする学際的な領域にわたる実践と理論を往還する学びを提供するために、現職教員と学部直進者等キャリアの異なる学生間の交流や、4つの修学校をつないだグループ討論等の協働的な学びを取り入れた講義、演習、実習、修士論文指導を実施します。

学修成果の評価については、「北海道教育大学大学院教育学研究科履修規則」に定める評価基準及び「北海道教育大学大学院教育学研究科修士課程学位論文及び最終試験に関する審査基準」に基づき、講義、演習、実習等の授業形態に応じて、課題レポートや発表についての観察評価等の適切な評価方法により実施し、単位を認定します。

4 履修基準

この専攻の科目から、次の方法により30単位以上を修得する。

- ① 専門科目から26単位以上選択（必修科目8単位を含む）
- ② 課題研究4単位必修

5 取得資格等

(1) 教育職員免許状

本専攻において、教育職員免許法及び同施行規則に定める所要の単位を修得したときは、次に示す教育職員免許状授与の所要資格を得ることができる。

ただし、取得しようとする専修免許状に対応する1種免許状を有することを条件とする。

なお、教員経験年数及び他教科の免許状所持による単位修得で1種免許状を取得した場合は、専修免許状を取得出来ない場合がある。

専攻・専修		教育職員免許状の種類	免 許 教 科
学校臨床心理専攻	学校臨床心理専修	小学校教諭専修免許状	
		中学校教諭専修免許状	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 保健, 技術, 家庭, 職業, 外国語 (英語)
		高等学校教諭専修免許状	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 保健, 家庭, 農業, 工業, 情報, 外国語 (英語)
		幼稚園教諭専修免許状	
		養護教諭専修免許状	

(2) 臨床心理士資格^{注1}

本専攻は、財団法人日本臨床心理士資格認定協会の臨床心理士指定大学院（第二種）となっている。指定された科目の単位を修得し、本専攻を修了した者は、1年の心理臨床経験を経て、臨床心理士の受験資格を得ることができる。

(3) 学校心理士資格

一般社団法人学校心理士認定運営機構が認定する資格で、学校心理士資格を取得するためには、次の条件を満たし、かつ、一般社団法人学校心理士認定運営機構の審査及び試験に合格することが必要である。

- ① 本専修において、指定された授業科目を修得すること。
- ② 学校心理学に関する実務経験が1年以上であること。

6 授業方法

学校臨床心理専攻の授業は、次のように行われます。

(ア) 現職教員等の便宜を図る趣旨から夜間開講に重点を置いて授業を行います。主に夜間に開講する授業の単位を修得することで修了できます。ただし、一部の授業については、土曜・日曜・祝日及び長期休業期間中にも授業を開講します。

(イ) 本専攻は、「(1) 修学形態及び修学場所」でも記載があるとおり、修学場所として札幌校（ベースキャンパス^{注2}）のほか、旭川校、釧路校及び函館校にサテライト^{注3}が置かれています。学生は、大学院入学試験の際に希望する修学場所を選択することができます。

また、修了に必要な単位は、選択した修学場所で履修することができます。さらに、他の修学場所で開講される授業も履修することができます。

ベースキャンパスでは主に対面授業、双方向遠隔授業^{注4}及びオンデマンド授業^{注5}が行われます。各サテライトでは双方向遠隔授業及びオンデマンド授業を中心に、出張講義、サテライト専任教員等による対面方式の授業が行われます。出張講義では、ベースキャンパスの専任教員が各サテライトに出向いて、対面方式による授業を行います。

注1 臨床心理士資格の受験資格を得るためには、財団法人日本臨床心理士資格認定協会の指定大学院で所定の単位を修得することが必要です。本専攻は、指定大学院（第2種）の指定を受けています。

注2 ベースキャンパス：本専攻の拠点となるキャンパスで、双方向遠隔授業の発信地となります。全開設授業科目の約70%をここで開設します。

注3 サテライト：ベースキャンパス以外の修学場所です。各サテライトで開設する授業及び双方向遠隔授業などで、本専攻の全開設授業科目の約60%をここで受講することができます。

注4 双方向遠隔授業：受講者の自宅等と大学教員の研究室等とをインターネット回線で結んだシステムです。Zoom等の遠隔会議アプリケーションソフトを用いて音声及び画像、文字情報等を双方向で送受信します。

注5 オンデマンド授業：予め授業担当者が掲示した電子ファイル資料や動画資料等を、受講者がインターネット回線を利用して任意の時間帯に自宅等で受信して学習します。受講者は電子メールなどを用いて授業担当者に質疑応答を求めることができます。

7 授業科目一覧（※令和5年4月現在。変更となる可能性があります。）

学校臨床心理専攻

授業の概要及び教員の研究概要については、教育企画課修学支援グループ(011-778-0320)へお問い合わせください。

学校臨床心理専修（学校臨床心理分野）

授業科目名	担当教員職・氏名
学校臨床心理特論	大学院教育学研究科教授 植木 克美
	札幌校 教授 平野 直己
	函館校 准教授 本田 真大
	旭川校 教授 久能 弘道
	保健管理センター教授 三上 謙一
	釧路校 准教授 浅井 継悟
	大学院教育学研究科准教授 宮原 順寛
	大学院教育学研究科准教授 齋藤 暢一郎 学外講師 佐藤 由佳利
臨床心理学特論Ⅰ	大学院教育学研究科教授 植木 克美 学外講師 山本 愛子
	大学院教育学研究科准教授 齋藤 暢一郎 函館校学外講師 新川 広樹 旭川校学外講師 高谷 桃子 釧路校学外講師 新山 博子
学校教育学特論	大学院教育学研究科准教授 宮原 順寛
学校教育学特別演習	
臨床教育学質的研究法特論	大学院教育学研究科准教授 宮原 順寛
臨床生徒指導特論	学外講師 庄井 良信
臨床生徒指導特別演習	学外講師 畠山 貴代志
	釧路校学外講師 中根 照子
学校経営特論	札幌校 准教授 栗野 正紀
教育心理学特論	札幌校 准教授 益子 洋人

授業科目名	担当教員職・氏名
教育心理学特別演習	釧路校 准教授 浅井 継悟
発達心理学特論	札幌校 教授 戸田 まり
	釧路校 准教授 半澤 礼之
臨床発達心理学特論	大学院教育学研究科教授 植木 克美
保育臨床研究特別演習	大学院教育学研究科教授 植木 克美
発達臨床心理学特別演習	函館校 准教授 本田 真大
特別支援教育コーディネータート論	大学院教育学研究科教授 植木 克美
	学外講師 松見 浩平
	学外講師 氣田 幸和
特別支援教育コーディネーター実践演習	大学院教育学研究科教授 植木 克美
	大学院教育学研究科准教授 齋藤 暢一郎 学外講師 畠山 貴代志
	学外講師 渡辺 泰行
	学外講師 浪岡 美保
学校カウンセリング特別演習	大学院教育学研究科教授 植木 克美
	大学院教育学研究科准教授 宮原 順寛
	学外講師 佐藤 由佳利
	学外講師 伊藤 貴啓 学外講師 牧野 秀昭
心理学研究法特論	札幌校 教授 戸田 弘二
臨床心理事例研究法特別演習Ⅰ	札幌校 教授 平野 直己
	大学院教育学研究科准教授 齋藤 暢一郎
	学外講師 佐藤 由佳利

（次頁に続く）

授業科目名	担当教員職・氏名
臨床心理事例研究法特別演習Ⅱ	札幌校 教授 平野直己
	学外講師 佐藤由佳利
	学外講師 未定
学校心理学特別演習	大学院教育学研究科准教授 齋藤暢一郎
	学外講師 佐藤由佳利
臨床心理学特論Ⅱ	札幌校 教授 平野直己
臨床心理学特論Ⅲ	保健管理センター教授 三上謙一
臨床心理学特論Ⅳ	旭川校 教授 久能弘道
非行臨床心理学特別演習	札幌校 教授 平野直己
臨床心理面接特論Ⅰ	学外講師 未定
臨床心理面接特論Ⅱ	大学院教育学研究科准教授 齋藤暢一郎
臨床心理査定演習Ⅱ	大学院教育学研究科准教授 齋藤暢一郎
	学外講師 佐藤由佳利
	学外講師 渡邊紀子
	旭川校学外講師 丸山利弥
	釧路校学外講師 川嶋るい
精神病学特論	学外講師 朴秀賢
	学外講師 畠山雪恵
臨床心理基礎実習	大学院教育学研究科教授 植木克美
	保健管理センター教授 三上謙一
	学外講師 武田理子
	学外講師 山本愛子
	函館校 准教授 本田真大
	旭川校学外講師 松田剛
	釧路校 准教授 浅井継悟
臨床心理実習	札幌校 教授 平野直己

授業科目名	担当教員職・氏名
臨床心理実習	大学院教育学研究科准教授 齋藤暢一郎
	旭川校 教授 久能弘道
	釧路校学外講師 清水輝彦
	旭川校学外講師 丸山利弥
	学外講師 佐藤由佳利
	学外講師 北川聡子
	学外講師 田村弥生子
	学外講師 勝田敏正
	函館校学外講師 未定
	学外講師 太田大輔
学外講師 米島広明	
課題研究	大学院教育学研究科教授 植木克美
	札幌校 教授 平野直己
	旭川校 教授 久能弘道
	釧路校 准教授 浅井継悟
	函館校 准教授 本田真大
	保健管理センター教授 三上謙一
	大学院教育学研究科准教授 宮原順寛
大学院教育学研究科准教授 齋藤暢一郎	
学外講師 庄井良信	
学外講師 佐藤由佳利	

(注) サテライトキャンパス名を付記していない学外講師は、ベースキャンパスまたは専攻全体に対して開講される授業を担当します。

所属・職・氏名	研究概要
学校臨床心理専攻 専攻長 教授 植木 克美	子どもの発達支援を軸に据え、教師・保育士・療育担当者、保護者への支援をテーマにして、地域臨床心理実践、高等教育機関における実践をフィールドとした研究に携わっている。そして、実践の「ふりかえり」支援を行うのに有効なICT活用の検討を臨床発達心理学、特別支援教育学、情報学の複合的視野から進めている。教師の教職経験に伴う保護者支援の変容過程に関する研究、ペアレントトレーニングに関する研究も行っている。
学校臨床心理専攻 准教授 宮原 順寛	授業づくり・学級づくり・学校づくりに関して、教育者と学習者との相互作用研究および教科内容研究に裏打ちされた実践知と理論知の生成を目指して、教育方法を基盤とした研究を行っている。これらに関わる補完的な研究テーマとして、教育的タクト論、教員養成・教員研修、現象学的解釈学的教育学、教育メディア、学校ボランティア、学校評価・授業評価、身体論、ドラマ論等についても考察を重ねている。
学校臨床心理専攻 准教授 齋藤 暢一郎	不登校事例への学校、家庭、地域での支援に関する臨床心理学的な研究を行っている。また、若年層から中高年層にわたるひきこもり事例に対するアウトリーチの実践を通じた、家族支援と訪問支援のモデル構築を研究している。心理療法については、トラウマケアの視点から、心身の不調や不適応についてのアプローチの探求を行っており、この視点から個人臨床を越えてコミュニティの危機介入や災害支援等の実践を行っている。
函館校准教授 本田 真大	学校における集団・個別への援助の実践から得られた問いを研究し、研究成果を実践に還元することを志向している。特に「他者に援助を求めること・助けられること」に対する認知（被援助志向性、援助評価）、行動（援助要請行動）、感情に焦点を当て、中学生・高校生（学校不適応予防のための認知行動療法的アプローチの開発）を中心に、幼児を育てる保護者（孤立しない子育てによる虐待の予防）、高機能自閉症のある中学生・高校生（適切に援助を求めるスキルの獲得）に対象を広げて研究を進めている。
旭川校教授 久能 弘道	学校教育現場における、児童生徒に関わる心理臨床的援助及び保護者・教師への支援について、理論・実践の両面から研究を進めている。スクールカウンセラー、産業カウンセラー、心理教育相談室スーパーバイザー等、地域の様々な援助ニーズをもつクライアントへの心理臨床実践を行いながら、解決志向アプローチの学校教育実践への応用、ブリーフセラピーを中心とした変化の原理、及びコミュニケーション理論をテーマとして取り組んでいる。
釧路校准教授 浅井 継悟	システム論、コミュニケーション論に基づいた家族療法、ブリーフセラピー（MRIアプローチ、解決志向アプローチ）を臨床のオリエンテーションとしている。これらの心理療法の考え方をどのように学校現場、地域社会に生かしていくのかについて強い関心を持っている。また、事例記述的な研究にとどまらず、上記の心理療法の考え方を生かし、実証的な研究として、自分を抑え他者に合わせる心理的な状態・特性である過剰適応についての研究や、大規模災害時のストレス反応についての研究なども行っている。
札幌校教授 平野 直己	心理療法から地域実践までさまざまなセッティングにおいて、主に精神分析学の発想に基づいて、子ども（乳幼児から青年期まで）の学びや育ちを支援するアプローチを実践、研究している。
保健管理センター 教授 三上 謙一	Bowlbyが開発したアタッチメント（愛着）理論とその研究成果を心理療法の実践にどのように応用するのかを研究テーマとしている。特に近年はCrittendenの開発した「アタッチメントと適応の動的-成熟モデル(Dynamic-Maturational Model of Attachment and Adaptation : DMM)」の日本への導入を試みている。アタッチメント理論は臨床実践と実証研究との間の、そして心理療法各学派間の「懸け橋」になると考えている。

学校臨床心理専攻 兼任教員 専門領域

所属・職・氏名	研究概要
札幌校准教授 栗野正紀	年齢主義の義務教育制度において、いかに課程の修得を保障するかという課題意識のもと、現在、日本の学校体系となっている6・3制学校体系が、アメリカ合衆国において、どのように成立したのかを検討している。とりわけ、学年から学年へと進級方式が試験の合否から年齢に基づくものへ転換した背景に着目しながら、歴史的に検討を進めている。
札幌校教授 戸田弘二	愛着が青年期以降の対人関係においてどのような役割を果たしているのかについて研究している。特に、内的作業モデルの情報処理機能について、潜在的態度との関わりで研究を進めている。
札幌校教授 戸田まり	家庭や学校など子どもをとりまく環境が、社会性の発達にどのような影響を及ぼすのかを中心に研究を行っている。特に共感性・向社会的行動の発達過程や社会的スキルの獲得過程について研究を進めている。
札幌校准教授 益子洋人	人々の心理的適応を促進する要因や、学校組織の開発に関する研究を行っている。特に「もめごと」という観点からそれらに焦点をあて、異なる意見をもつ人々が、お互いに納得できる解決策を形成するためのスキルを育む方法について、心理教育的な観点から検討している。
釧路校准教授 半澤礼之	専門は生涯発達心理学・教育心理学、キャリア教育。特に青年期を対象として、“過去-現在-未来の結びつき”として捉えられる時間的展望の形成や再構築について、「学校から学校」や「学校から社会」といった移行期に焦点を当てて研究を行っている。量的研究に加えて質的研究も研究手法として取り入れており、青年たちが移行期に抱える問題を多面的に理解することを目指している。